

## 兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について (2)

高橋弘樹<sup>1)</sup>

### はじめに

筆者が兵庫県西播磨地域（相生市，たつの市，赤穂市，宍粟市，太子町，上郡町，佐用町）で撮影・採集した種のうち，兵庫県内において初記録とみられる種，記録の少ない種，記録された地点は少なくないものの発見地の近隣で未記録の種について報告する。

兵庫県内に記録はあるが播磨地域全域で初記録の種には○を，西播磨地域で初記録の種には☆を種名の右に付した。採集・撮影者は特記したものを除き，全て筆者であるため記載を省略している。

### 各種資料

#### 兵庫県において初記録とみられる種

##### キバガ科

1. サビイロクロキバガ *Teleiopsis moteleela* 図 1  
1ex., たつの市新宮町光都, 29. III. 2024. :1 ♂, 同地, 23. III. 2026.  
ライトトラップに飛来した。前翅の地色は暗褐色で，多数の赤褐色点をもつため錆びた金属のような印象となる。国内では本州，国外では朝鮮半島南部に分布（広渡ほか，2013）している。

##### ホソガ科

2. クロコハマキホソガ *Caloptilia kurokoi* 図 2  
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.  
標高約 1,000m 地点でのライトトラップに飛来した。夏型と秋型があり，顔や前翅，前翅の三角紋の色などが異なる。今回確認した秋型はやや大きく開帳 16mm 内外，全体に濃色になり，顔面は濁った黄色，その他は暗褐色，前翅の三角紋は白みが強く褐色鱗が混じる（広渡ほか，2013）。
3. エノキハマキホソガ *Caloptilia celtidis* 図 3  
1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.  
前種と同じ日に飛来した。本種も夏型と秋型があり，色彩と大きさが異なる。国内では本州，九州に分布し，エノキ，エゾエノキなどエノキ属を寄主植物とする（広渡ほか，2013）。

##### ヒラタマルハキバガ科

4. ユミモンマルハキバガ *Semioscopis japonicella* 図 4  
1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 18. IV. 2026.  
ライトトラップに飛来した。広渡ほか（2013）によると，国内では本州（岩手県以南），四国，九州に分布し，中部地方・関東地方では 4 月中旬から 5 月中旬に成虫が灯火に飛来するとのことである。

##### ハマキガ科

5. マエキハマキ *Acleris pulchella* 図 5  
1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 19. X. 2025.  
館敷地内に設置したライトトラップに飛来した。国内では北海道～九州，対馬に分布し，成虫は 6～8 月と 9～11 月に確認されている（那須ほか，2013）。

##### ハマキモドキガ科

6. イラクサハマキモドキ *Anthophila fabriciana* 図 6  
1 ♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18. IV. 2026.  
佐用町昆虫館の外壁に日中静止していた。那須ほか（2013）によると国内の分布は北海道，本州で，成虫は昼飛性で種々の花に飛来し，5～8 月に得られている。寄主植物はイラクサ。昆虫館の敷地内及び周辺では目につけば除去されるが，イラクサ属または近縁の植物が自生している。

##### シャクガ科

7. マダラシロエダシャク *Hesperumia silvicola* 図 7  
1 ♂, 佐用町船越, 18. X. 2025.  
瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来した。関東以西の本州，四国，九州に分布する日本固有種で，6 月下旬～7 月上旬と 9～10 月に出現する（岸田，2011a）。
8. マエキナカジロナミシャク *Dysstroma korbi* 図 8  
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.  
ライトトラップに飛来した。本種はウスキナカジロナミシャク，ツマキナカジロナミシャクに酷似する。♀交尾器のコルプス・ブルサエは細長く，ドクツス・ブルサエとの接続部に袋状の肥大部が生じる。国内では北海道及び関東地方から中部地方の低山地から山地に産する（岸田，2011a）。

<sup>1)</sup> Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

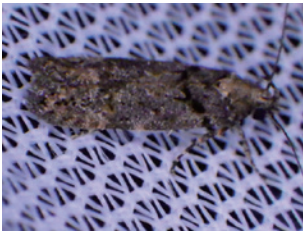


図1 サビイロクロキバガ, たつの市, 2026/3/23

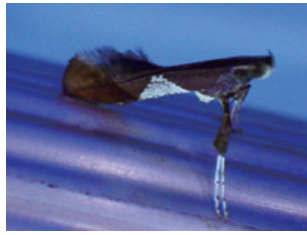


図2 クロコハマキホソガ, 宍粟市, 2025/11/12



図3 エノキハマキホソガ, 宍粟市, 2025/11/12



図4 ユミモンマルハキバガ, 宍粟市, 2026/4/25



図5 マエキハマキ, 佐用町, 2025/10/19



図6 イラクサハマキモドキ, 佐用町, 2026/4/18



図7 マダラシロエダシャク, 佐用町, 2025/10/18

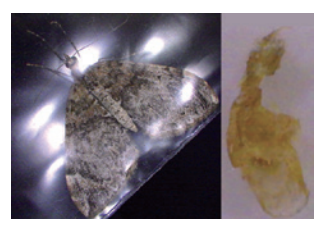


図8 マエキナカジロナミシャクと♀交尾器, 宍粟市, 2025/11/12



図9 ハイマダラホソヤガ, 相生市, 2026/2/26



図10 ハイマダラホソヤガ, 相生市, 2026/3/20

### メイガ科

11. フタシロテンホソマダラメイガ *Assara korbi* ☆ 図12  
1ex., 上郡町金出地, 22. V. 2024.; 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18. X. 2025.  
ライトトラップに飛来した。国内全域に分布し、成虫は5～10月に平地から山地まで見られるがあまり多くないとされる(那須ほか, 2013)。神戸市・川西市・神河町・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

### ヤガ科

9. ハイマダラホソヤガ *Sigmuncus tessellatus* 図9, 図10  
1 ♀, 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 26. II. 2026.; 1 ♂, 同地, 20. III. 2026.  
外灯に飛来していたものを採集した(高橋, 投稿中)。2026年2月に新種記載された種で、前翅地色は灰黄褐色、垂外縁線、外横線は細かく鋸歯状となる。腎状紋と環状紋は不明瞭で黒点が現れる。中室下部、後角付近に淡黄色から赤褐色影が出現する個体もある(稀に基部も黄褐色となる個体もある)。後翅のCu2沿いに黒色鱗片が現れることが多い(枝, 2026)。記載論文で採集地として香川県を除く四国3県と九州本土のほぼ全域及び岩岐のデータが示されているが本州は含まれておらず、採集時期も6月～10月で冬から春の採集例は含まれていない。斑紋の変異は大きいようだ。

### シャクガ科

12. フタテンソトグロキエダシャク *Pseudepione shiraii* ○ 図13  
1 ♀ 7exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. XI. 2025.; 2exs., 同地, 12. XI. 2025.  
ライトトラップに飛来した。前後翅の外横線は大きく湾曲する。年1化で9～11月に出現。寄主植物としてヒメシヤラが確認されている(岸田, 2011a)。兵庫県内の記録は南あわじ市のみである(宇野ほか, 2024)。
13. ウスジロエダシャク *Ectropis obliqua* ○ 図14  
1 ♂, 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 5. III. 2026.  
外灯に飛来していた。色彩斑紋は変化に富むが、前翅の外横線が後縁に対してあまり傾斜せず、内横線にほぼ並行して走る。♂では後翅脛節に毛束が発達する(岸田, 2011)。神戸市・川西市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

### 兵庫県で記録の少ない種及び発見地の近隣で未記録の種 ヒラタマルハキバガ科

10. アケボノマルハキバガ *Agonopterix laterella* 図11  
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.  
ライトトラップに飛来した。国内では本州, 四国, 九州, 国外ではロシア南東部, ヨーロッパに分布する(広渡ほか, 2013)。相生市・上郡町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

14. ヒメシタコバネナミシャク *Trichopteryx microloba* ○ 図15  
2exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 11. IV. 2026.; 1ex., 同地, 25. IV. 2026.  
ライトトラップに飛来した。翅形はシロシタコバネナミシャク

に似て細長い。地色は暗く、中・外横帯はかなり接近するか合流する(岸田, 2011a)。兵庫県内の記録は宝塚市のみである(宇野ほか, 2024)。

15. ヒメクロオビフユナミシヤク *Operophtera crispifascia* 図 16

1♂, 宍粟市波賀町鹿伏, 19. XI. 2022.; 1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。クロオビフユナミシヤクに似るが、前翅中横帯が外方に傾斜し、第1室で外側に角張り、後縁で外横帯に接近する(岸田, 2011a) ことで識別できる。ブナ帯に広く産するが、標高が低くてもイヌブナがあれば生息できるようで、鹿伏の標高は500m程度、これまで兵庫県内で唯一記録されていた佐用町高蔵寺(川副, 1987)は200m程度であることから、県内では丘陵地から山地まで広く分布している可能性がある。

16. ナカアオナミシヤク *Eupithecia sophia* ☆ 図 17

1♀, 上郡町金出地, 27. IX. 2021.; 1♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18. X. 2025.

ライトトラップに飛来した。関東地方以西から九州の平地から山地まで広く分布する(岸田, 2011a)。県内では神戸市・西脇市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

シャチホコガ科

17. エゾクシヒゲシャチホコ *Ptilophora jezoensis* ○ 図 18

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。クシヒゲシャチホコより1週間から10日早く出る(岸田, 2011b)とされる。この場所での飛来数は2025年11月1日は両種とも0, 同月12日は本種1頭, クシヒゲシャチホコ15頭以上, 同月23日は本種0頭, クシヒゲシャチホコ5頭だった。朝来市・養父市・香美町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

ヒトリガ科

18. ベニゴマダラヒトリ *Utetheisa pulchelloides* ○ 図 19

1♀, 赤穂市高野 千種川河川敷, 23. X. 2025.

日中、千種川河川敷の草むらから驚いて飛び立ったものを採集した。飛翔時は青みがかった白色に見え、飛び方と合わせてホシベッコウカギバのように見えた。草むらの高さは1m程で、セイタカアワダチソウの花が多く見られた。偶産種とされており、兵庫県内では豊岡市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

ヤガ科

19. クロスジヒメアツバ *Schrankia costaestrigalis* 図 20

1♂, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.; 1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。三田市・相生市・上郡町・西脇市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

20. クロモンホソコヤガ *Araeopteron kurokoi* 図 21

1♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 19. X. 2025.; 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 18. IV. 2026.

ライトトラップに飛来した。開張10mm内外の小型種で、兵庫県内の記録は上郡町高田台(大貝, 2018)のみである。

21. カザリツマキリアツバ *Tamba igniflua* 図 20

1ex., 上郡町金出地, 15. VIII. 2022.; 1ex., 同地, 22. V. 2024.; 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 28. VI. 2025.; 1ex., 同地, 18. X. 2025.

ライトトラップに飛来した。暖地に産するがあまり多くない(岸田, 2011b)とされる。神戸市・宝塚市・多可町・相生市・川西市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

22. マンレイツマキリアツバ *Polysciera manleyi* ☆ 図 23

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。北海道から九州にかけて分布する日本固有種で、6~8月に出現する。翅を立てて静止する(岸田, 2011b)。西脇市・養父市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

23. セアカキンウワバ *Erythroplusia pyropia* ☆ 図 24

1♂, 佐用町船越, 26. X. 2025. 三村剣義.

瑠璃寺仁王門横の高台の、植物保護のために設けた鹿柵内で日中に訪花していたものを三村剣義氏が採集した。寄主植物はセリ、エゾトリカブト(岸田, 2011b)である。神戸市・宝塚市・西脇市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

24. コケイロホソキリガ *Lithophane nagaii* ☆ 図 25

2♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 11. IV. 2026.; 2exs., 同地, 18. IV. 2026.

ライトトラップに飛来した。前翅後角付近にV字状の白条がある。10~11月頃に羽化し、翌年4月頃まで生存する(岸田, 2011b)。兵庫県内の記録は兵庫県西部・神戸町・養父市・香美町となっている(宇野ほか, 2024)。

25. ヤマノモンキリガ(キシダモンキリガ) *Sugitania clara* ○ 図 26

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 19. XI. 2022.; 1ex., 上郡町金出地, 14. I. 2023.; 1ex., 同地, 22. II. 2026.; 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。照葉樹林帯から夏緑広葉樹林帯にまで広く分布(小林, 2016)する。兵庫県内での記録は西宮市・

川西市付近・養父市・香美町となっている (宇野ほか, 2024).

## 26. イイジマキリガ *Orthosia ijimai* ○ 図 27

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 11. IV. 2026.

ライトトラップに飛来した. 春先に出現する. 日本固有種で北海道, 本州, 九州に分布する (岸田, 2011b). 兵庫県内の記録は養父市のみ (宇野ほか, 2024) である.

以上 26 種を報告する. 兵庫県内で初記録の種が 9 種, 播磨地域全域で初記録の種が 7 種, 西播磨地域で初記録の種が 5 種である.

### 謝辞

末筆ではあるが, 同定と資料入手に関して大変お世話になった阪上洗多氏に厚く御礼申し上げる.

### 引用文献

- 宇野宏樹・池田 大・阪上洗多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. [https://www.konchukan.net/moths/moths\\_of\\_hyogo.html](https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html) (参照 2026 年 4 月 22 日).
- 枝 恵太郎, 2026. 日本産ホソヤガ亜科 *Sigmuncus* 属の 1 新種. *Tinea*, 28 (1): 53-55.
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 94pp. 播磨長翅目研究センター.
- 川副昭人, 1987. 佐用郡三日月町蛾覚え書. てんとうむし, 10: 289-298.
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp. 学習研究社.
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416pp. 学習研究社.
- 小林秀紀, 2016. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 8 日本の冬夜蛾. 112pp. 有限会社むし社.
- 高橋弘樹, 投稿中. 兵庫県相生市でハイマダラホソヤガを採集. 月刊むし, 有限会社むし社.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 IV. 522pp. 学習研究社.
- 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 III. 360pp. 学習研究社.



図 11 アケボノマルハキバガ,  
宍粟市, 2025/11/12



図 12 フタシロテンホソマダラメイガ,  
佐用町, 2025/10/18



図 13 フタテンソトグロキエダシャク,  
宍粟市, 2025/11/1



図 14 ウスジロエダシャク,  
相生市, 2026/3/5



図 15 ヒメシタコバネナミシャク,  
宍粟市, 2026/4/25



図 16 ヒメクロオビフユナミシャク,  
宍粟市, 2025/11/12

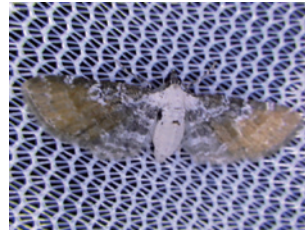


図 17 ナカアオナミシャク,  
上郡町, 2021/9/27



図 18 エゾクシヒゲシャチホコ,  
宍粟市, 2025/11/12



図 19 ベニゴマダラヒトリ,  
赤穂市, 2025/10/23



図 20 クロスジヒメアツバ,  
宍粟市, 2025/11/1



図 21 クロモンホソコヤガ,  
佐用町, 2025/10/19



図 22 カザリツマキリアツバ,  
上郡町, 2022/8/15



図 23 マンレイツマキリアツバ,  
宍粟市, 2025/8/29



図 24 セアカキンウワバ,  
佐用町, 2025/10/26



図 25 コケイロホソキリガ,  
宍粟市, 2026/4/11

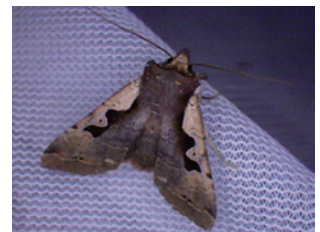


図 26 ヤマノモンキリガ,  
宍粟市, 2025/11/1



図 27 イイジマキリガ,  
宍粟市, 2026/4/11